

信州澤瀉ニ就テ

藤 田 路 一

M. FUJITA: On the Drug "Takusya" from Sinano in Japan.

利尿ノ効アリトシテ漢方並ニ賣藥原料ニ其多量ヲ消費サレル澤瀉ハ、從來主トシテ支那産ヲ以テ需要ヲ充タシテ居タ。然ルニ支那事變ノ影響ヲ受ケテ、漢藥モ輸入統制ニ待ツ様ニナツタ結果、管テハ一部ノ消費者ノミニ限ラレテイタ信州澤瀉ナルモノガ最近ニ至ツテ東京ノ市場ニモ出現シタ。

生藥 (Fig. 1) ハ何レモ長形デ長サ 5-8 cm、太サ 2 cm 内外、根頭ハ分岐シ、其陥没部ニ殘存スル花梗ヲ具ヘ、内部ノ實質ハ白色、灰褐色ノ外皮ヲ著ケ、周圍ニ鬚根ヲ有シテ外觀ハ粗糙デアル。

從來カラ長野縣下ニ於テ澤瀉ノ栽培アリト聞イテ居タガ、其生藥ヲ見ルニ及ビ昨年 9 月 30 日松本市ヲ訪レル機會ヲ得テ、親シク該地ノ狀況ヲ見聞スル事ガ出來タ。其際栽培スル生植物ヲ持歸リ、東大理學部植物學教室ノ原寬博士ニ鑑定ヲ乞フタ所サジおもだカ *Alisma orientale* JUZEP CZUK (Fig. 2) ト考定サレタ。

松本附近ニハ寫眞 (Fig. 3, 4) ニ示ス様ニ、本種ヲ植エル水田ガ至ル所ニ見ラレ、其成育狀態モ一見サジおもだカトハ思ヘヌ程美事デアル。本種ノ栽培ハ 3 月、先ヅ種子ガ細カイ爲砂ニ混ジテ蒔キ、發芽スルニ從ツテ次第ニ水嵩ヲ増シ、苗ガ 5-6 寸ニ伸長シタ 6 月中旬ニ至リ定植ヲ

Fig. 1. 信州澤瀉 ($\times 2/3$)

行フ。肥料ハ油粕ヲ用ヒタ事モアルガ、現在ハ鱧ヲ直接水田中ニ挿込ム方法ニ依ル。其爲水面ニハ相當強ク脂肪ガ浮遊シテ異様ノ觀ヲ與ヘテイル。栽培中花ヲ咲カセルト所謂生薬トシテノ芋(根莖)ガ出来ナイ。故ニ花梗ノ除去ハ常ニ注意スル絶對必要條件デアアル。

收穫ハ 11 月初旬ニ全草ヲ掘起ス。筆者ガ訪レタ 9 月下旬デサヘ既ニ稍葉ガ枯レテイタ程デアアルカラ、マシテ其頃ハ寒氣モ相當強ク地上部ハ全ク綠色ヲ失フ。然シ其時分ニナラヌト薬用ニスル程ノ大サノ根莖ハ出来ナイ。掘起シタモノカラ土ヲ洗ヒ去ル事ハ仲々困難デ且手數ヲ要スル爲メ、現在ハ泥付ノ儘デ席上ニ擴ゲ、雨雪ヲ避ケテ日光乾燥ヲ行フノデアアルガ、仕上ル迄ニハ優ニ 3 ヶ月ヲ要スルト云フ。又根株ニハ鬚根ガ叢生シ且冬期水田中ノ操作ノ爲メ堀上作業モ容易デナク、1 段歩ヲ 1 人デ行フトスレバ 6 日間ヲ費ストノ事デアアル。斯クシテ乾燥シタ全草カラ土ヲ落シ、鬚

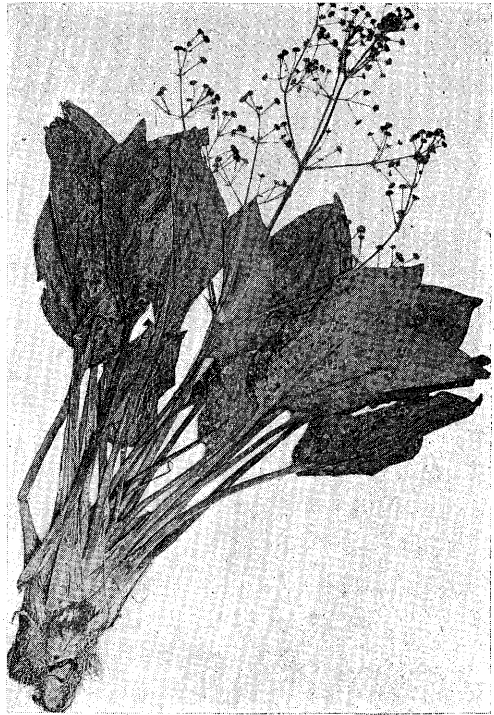


Fig. 2. さじおもだか *Alisma orientale*
JUZEPCZUK (信州澤瀉ノ原植物)



Fig. 3. 松本附近ニ於ケルさじおもだかノ栽培状況

根ヲ除キ、根ヲ集メテ桶ニ入レ攪拌シテ粗皮ヲ剥ギ、清水デ洗ツタ後充分日乾スル。仕上ツタ生薬ハ内部ノ白色ナルヲ誇トシテイル。

乾燥收得量ハ1坪カラ約 200 匁、即 1 段歩ノ收穫 60 貫ト云フガ、實際ハ之以下デアツテ 50 貫出來レバ成績良好デアラウ。客秋當時ノ相場ハ 1 貫目ニ



Fig. 4. 同上

付 10 圓ニ達シタト云フカラ相當ノ純益ヲ得タニ相違ナイ。丁度大正ノ末期ニモ同様状態ヲ現出シタト云フ。然シ之モ品薄ノ關係カラ取引サレル額デアツテ、通常ハ矢張り 1 貫目 3 圓程度ヲ標準トスルラシイ。ソレニシテモ肥料トシテ米ノ三倍額ヲ要シ、其材料タル鱈ノ入手モ物資不足ノ折柄益々困難ニ陥ル事デアラウカラ、廣ク一般市場カラ信州澤瀉ノ姿ガ消エ去ル事モ、サシテ遠クハアルマイト思ヒ此處ニ記シテ置ク。

信州澤瀉ニ關聯シテ些カ支那産並ニ日本産澤瀉ニ就キ愚見ヲ述ベル。支那産生薬ノ原植物ハ、BRETSCHNEIDER, TATARINOV 等ノ歐米學者ニ依リ *A. Plantago L.* (= *A. Plantago-aquatica L.*) ニ充テラレ。蘭山、灌園、愆齋等ノ我國本草家ノ所説ハ何レモさじおもだかト同定シタ。又松村任三博士ハとうごくへらおもだか *A. Plantago L.* ヲ起用シ同時ニさじおもだか *A. Plantago L. var. latifolium KTH.* ヲ以テ本草原始ニ載ル水澤瀉ノ母植物ナリト述ベラレタガ、水澤瀉ニ就テハ本草圖譜並ニ草木圖説ハ充テルニへらおもだか *A. Plantago L. var. angustifolium KUNTH* ヲ以テシタ。

今、本草綱目ニ依レバ、名醫別錄ニ汝南(河南省ニ屬ス、湖南省ニ當テルハ非ナリ)ノ池澤ニアリト云ヒ、弘景ハ其近道ニモ産スルガ之等ノ中部支那産ハ用フルニ堪ヘズ、漢中(陝西省)、南鄭(同前)、並ニ青州(山東省)、代州(山西省)産ヲ賞用シテ「形大而長尾間必有兩岐爲好葉狹長」ト述べ、蘇頌亦涇州(甘肅省)、華州(陝西省)ノ者ヲ以テ漢中産ニ次ク良品ナリトシタ點カラ見ルト、

當時漢中ヲ主產地トスル北方産ヲ重用シタ事ハ明カデアル。

最近 (1932 年) GUNNAR SAMUELSSON ハ Arkiv för Botanik = *Alisma* 屬ヲ整理分類シタガ、其中日支兩國産ノ種類ト支那 = 於ケル分布ヲ抄録スルト次ノ通り (學名下ノ括弧内ハ本田博士著日本植物名彙ニヨル)。

- 1) *A. Plantago-aquatica* L. 支那、蒙古(新疆地方)。
- 2) *A. Plantago-aquatica* L. Ssp. *orientale* SAM. (さじおもだか *A. orientale* JUZEPCZUK)
日本、支那 (山東、山西、陝西、甘肅、四川、雲南、貴州、廣西省)。
- 3) *A. canaliculatum* A. BRAUN et BOUCHÉ (へらおもだか)
..... 日本、支那 (江西、浙江、湖北、湖南、廣東省)。
- 4) *A. rariflorum* G. SAMUELSSON (とうごくへらおもだか) 日本。
- 5) *A. gramineum* GMELIN 蒙古、支那 (陝西省)。

而シテ古代 = 於ケル品種並 = 分布地ヲ現今ノ夫等 = 該當セシメル説並 = 澤瀉ノ原植物ヲ *Alisma* 屬トスルコトノ適否 = 就テハ議論ガアラウガ、今假リ = 基原ヲ本屬 = 置ク前提ノ下 =、本草綱目 = 現ハレタ產地 = 前記 SAMUELSSON ノ論文ヲ引用シ、同時 = 弘景ノ説ク形大而長云々ナル形態上ノ記載カラ推察スルト、さじおもだかが當時文獻 = 示サレタモノノ原植物 = 適合シテイル様 = 想ヘル。

我國デモ、小野蘭山 (1803 年) 並 = 岩崎灌園 (1828 年) ハ原植物ヲ考究シテさじおもだかと断定シ、奥州仙臺産ノ栽培種ヲ漢産 = 次グ上品トシタ。本草圖譜 = ハ「唐種ヲ植エテ生ズルコトアリ形狀之ト同ジ」ト云ヒ、和漢同一物ナルコトヲ指摘シタ。又啓蒙 =、「諸國自生ノ者ハ葉形羊蹄葉 = 似テ長ク根至ツテ小サクシテ輕虛下品ナリ」トスルモノヲ水澤瀉 = 充テ且「古ハ丹波、近江、越後 = 産セシモ今ハ否ズ」ト結ンデイル。即チ之ヨリ先、貝原益軒 (1709 年) ガ大和本草澤瀉ノ項 =、「葉ノ形—Fig. 5ヲ描ク—如此丹波ノ土民是ヲ田 = ウエテ利トス」、トアルモノヲ蘭山ノ所説 = 對照スルト、彼ノ稱スル水澤瀉ハ恐ラクへらおもだかヲ指シテイルモノト考ヘル。又之 = 次デ出版サレタ和漢三才圖繪 (1713 年) = モ次ノ記事ガアル。「按澤瀉出於丹波者堅實肉白爲上、越後之産輕虛而爲次、然越後者形狀似唐澤瀉丹波者稍異」。

之等ノ所説 = 依ツテ、本邦 = 於ケル澤瀉ノ栽培ハ丹波 = 始マ

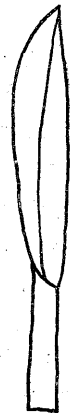


Fig. 5.
大和本草 = 描ク
葉ノ形
(原寸大轉寫圖)

リ且當初ハへらおもだかヲ採用シタモノト考ヘラレル。

然ルニ現在市場ニ現ハレル唐澤瀉ト稱スルモノ (Fig.6) ハ殆ンド球圓形或ハ倒圓錐形又ハ倒卵形デ大形、徑 3-5 cm ヲ算ヘ、少クトモ外見上ニ於テ、一見さじおもだかヲ基原トスル信州澤瀉ト相違スル。更ニ植物名實圖考ノ諸説ノ内「撫州志臨川產澤瀉其根圓白如小蒜」ト云フ一節アリ。此小蒜ニ就テハ、綱目ニ蒜ノ一名トシ、葫ヲ大蒜ト名付ケテ大小ノ蒜ニ類別シタ。嘗テ高橋眞太郎氏ガ日本藥報 (昭和 14 年 2 月 20 日發行) 紙上ニ述ベラレタにんにくノ學名下ニ於テ言及シテイル如ク、今尙蒜ガ何物ニ該當スルカハ不明デア

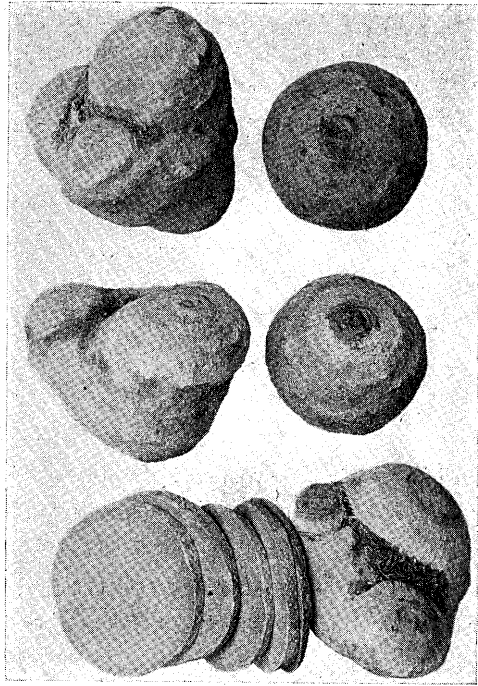


Fig. 6. 現在市場ノ唐澤瀉 (× $\frac{2}{3}$)

ルシ其大サニ就テモ、集解ニ大蒜ハ徑 2 寸ト云フモ小蒜ニ對スル記載ガナイ爲メ之ヲ知ル術モナイ。ガ兔ニ角、當時球狀ノ澤瀉ガ現在ノ江西省カラ產出シタ事等カラ推定スルト、假ヘ本種ニ基クト稱スル朝鮮產澤瀉ノ形狀ガ若干支那産ニ接近スル傾向アリトハ云ヘ、現今市場ノ唐澤瀉ヲさじおもだか或ハへらおもだかト肯定スル事ハ出來ナイ、恐ラク別種ニ屬スルモノデアロウ。更ニ推考ヲ強メルナラバ、現在ノ唐澤瀉モ外形上カラ 2 種ニ類別シ得ル。果シテ然リトスレバ支那ニ於テハ 3 種ノ澤瀉ガ行ハレタ事ニナルガ、之ガ解決ニ當ツテハ充分ナル今後ノ調査研究ニ待ツヨリ他ハナイ。

擱筆ニ臨ミ、御校閲ヲ賜ツタ生藥學教室ノ藤田教授ニ深ク御禮ヲ申述ベルト共ニ鑑定ノ勞ヲ執ラレタ原寛博士、便宜ヲ與ヘラレタ國產生藥會社ノ井上常務、細川信澄氏等ニ厚ク感謝ノ意ヲ表スル。